

人材育成講座

○事業概要（現状・課題、プログラムの目的・コンセプト）

2017年の訪日外国人旅行者は数・消費額とも過去最高であるが、政府が目指す2020年4,000万人（消費額8兆円）の達成は決して容易ではない。そのためには、様々な地域で開催でき、実施時期も拡散でき、消費単価が高いとされるMICEは有効である。政府は、MICE推進に取り組んでいるが、一方でその人材育成のプログラム開発と育成は進んでいない。また、MICE全般を教育プログラムとする大学はわずかである。そこで、横浜商科大学は、2014年から産業界と連携して、MICE教育プログラム開発と社会人を対象とした講座の実施に取り組んでいる。この動きは、文部科学省のSPH指定を受けた高等学校のMICE教育につながった。今後は、産学が連携し、高大連携も見通した、MICE教育の更なる発展を目指し、MICE業界で働く意義と魅力を広く社会に発信していくことが必要である。

・対象者

- ①MICE業務従事者（CB、ホテル、旅行会社、PCO等）
- ②観光事業従事者
- ③他の産業従事者でMICEに興味・関心のある方

・人数

- ①eラーニング（500名）
- ②MICE講座（各講座30名）

・実施場所

- ①eラーニング（時間・場所を選ばず視聴可能）
- ②MICE講座（本学又は駅周辺施設）

・実施スケジュール

- ① eラーニング(11月～2月)
- ②MICE講座（11月～2月）
3日間×別内容で3回実施



カリキュラム内容

・カリキュラム概要

- ①MICE関連eラーニング（20～30講座） 繰り返し学べることやスマートフォンなどでも受講可能なことが利点。講座視聴後のチェックテストにより理解度を測るなど、講座のための予習・復習として活用。
- ②社会人向けMICE講座（3日間×3回を予定）ではフィールドワークやPBLを取り入れる。

・習得できる能力、期待される効果

- ①MICEの基礎理論から現場で必要とされる実践力が修得できる。
- ②MICEビジネスの最先端を学び、次代を担える知識と技能を有することができる。
- ③講師と学修者間の新たなネットワーク構築を目指す。

・特色のある講義や研修、教育方法など

それぞれ必要とする知識とスキルは異なるために、段階的なカリキュラムを構築し、現場で必要とされる課題を検討しながら、その解決策を自ら考えるPBL型の講座とする。

・社会人が受講しやすい工夫

- ①eラーニングは24時間、パソコン・スマートフォンでの受講なので、学ぶ場所を選ばない。
- ②社会人向けMICE講座は夜間または週末に実施。



実施体制スキーム

・横浜商科大学 +

